



振り付けを覚えた後は動画でダンスシーンを撮ってみんなで確認。上手に踊れていると、自然と拍手が起こる。



コンテスト用のダンスはコーチが振り付けてくれるが、校内発表会などでは自分たちで振り付けもする。



ジャズダンスチームは別の場所で練習中。現在は新3年生と新2年生による混成チームだ。

みんなで踊るって楽しい。曲を聴くと、踊り出したくなる。

「人に教えるって、すごく難しい。結局、身振り手振りで『こうして』『こうやって』って言うだけになっちゃって。そこをみんなにツッコま

さん。二人とも小学生の頃からダンスを習い、現在も部活とは別にダンススタジオに通っているくらいダンスが好き。チームのメンバーそれぞれ細かい動きや、全体がそろっているかを確認しながら皆にアドバイスをしてきた。チームのスキルアップのため、二人で引つ張ってはい

ものの、それなりに不安もある。

「人に教えるって、すごく難しい。

結局、身振り手振りで『こうして』『こうやって』って言うだけになっちゃって。そこをみんなにツッコま

午 後4時、L1教室はダンススタジオと化す。部活動を始める前にみんなで大きな鏡を壁に並べてから、体幹トレーニングと柔軟体操。それが終われば練習開始。夕方6時過ぎまで練習が続く。

浜松東高校ダンス部は、「ガチでダンスしてる」と地元ダンサーたちの間で話題の部活。全国的なコンテストにこれまで何度も出場してきた実績を持つ。校内でもサッカー部と次ぐ大所帯で、昨年度は部員が76人と、サッカー部員の80人に迫る勢い。ダンス部を目指して入学してくる生徒もいるほどだ。現在、新2年生の部員数は27人。そのうち25人がヒップホップ、2人がジャズダンスの



入学前からダンスを通じて何となくお互いの名前を知っていたという美結さん(左)と成奈さん(右)。

チームに所属する。校内発表の場では互いに交わってユニットを組むこともある。

ヒップホップダンスには「こう踊らなければダメ」という決まりがない。体を自由に使い、音楽に乗って踊るのが基本だ。週に一度、コーチが技術指導に来てくれるが、結成当初は何をどう踊ればいいのか戸惑う場面が多かった。新2年生ヒップホップチームの25人中、ダンス経験者は8人。一年生の一学期の頃は練習がなかなか進まず「かなりヤバい」状況だったという。

目指すは全国大会

そんなチームを技術面で引つ張っているのが伊藤美結さんと鈴木成奈



1学年上の先輩たちによるヒップホップの強豪ダンスチーム「RUFF TIGHT (ラフタイト)」のステージ。

れて笑いで場が和むっていう効果はあるけど(笑)」と美結さん。

「私は自分に自信がなくて、この教え方でいいのか分からなくなっちゃう」とうつむく成奈さん。

「私も同じだよ。成奈とは何も言わなくても自然と助け合える関係だし、皆もついてきてくれるから」と美結さんが励ましの一語。二人のコンビネーションは絶妙だ。

そんな二人には、高校生のうちにかなえない夢がある。それは、先輩たちのように、全国大会に出場して入賞を果たすこと。

「大きな目標だけど、皆がいるから頑張れる。ダンスが好きだから頑張れる」と顔を見合わせると、キラキラの笑顔がはじけた。



美結さんは、部活が終わった後も、ほぼ毎日ダンススタジオに通ってレッスンに励んでいる。